

概 要 報 告

実施期日	令和7年8月4日(月)
部 会 名	中学校 特別活動部会

研究主題

望ましい集団生活を通して、生徒一人ひとりの自主的・実践的な態度を育む活動

テーマ

『生徒が主体的に参加する生徒会活動～多角的視点で考え、意思決定をする力の育成～』

提案概要

本実践では、生徒が多様な視点で物事を捉え、自らの意思として一票を投じる力を育てるために、生徒総会を中心とした指導をいくつか実施した。実際に実施した取組は、以下の四つである。

①中央委員会における議題の検討

生徒総会の議題設定にあたって、中央委員会において約2ヶ月にわたり検討を重ねた。生徒たちは、学校生活における課題や改善すべき点について意見を出し合い、複数の候補から議論にふさわしいものを絞り込み、最終的な議題を決定する。

②全校生徒に対する事前アンケートの実施

中央委員会で議題が決定したのち、事前アンケートを全校生徒に対して実施した。課題に対する生徒の関心の程度や、自分の意見や投票などがどれくらい全体に影響すると考えているのかを調査することが目的とした。

③生徒総会に向けた事前授業・生徒総会

事前アンケートの結果により、特に委員会経験のない生徒において、課題に関する関心が低く、生徒総会に主体的に取り組む姿勢が低い様子がみられた。そこで、すべての生徒が自ら意見を形成しやすくなるよう、各クラスで議題に関する事前授業を実施した。様々な立場の意見を聞き、意見を踏まえ、自らの立場を決めることで活発に議論する様子が見られた。

④事後アンケートの実施

生徒総会後には事後アンケートを実施し、生徒の意識の変化を確認した。事後アンケートの結果、委員会経験の有無に関わらず、事前授業によって議題に対する興味・関心が高まった傾向が見られた。

また、「自分の意見によって、学校生活がより良くなると思うことはあるか」という質問項目についても委員会経験の有無に関わらず、「ある」「どちらかといえばある」と答えた生徒が増え、「投票する時、どのような気持ちで投票を行ったか」においても、多角的な視点で考え、投票をした生徒が増えた傾向が見られた。

今回の一連の取り組みが、生徒の主体的な意思形成や関心の向上に一定の効果をもたらしたことが示唆された。

質疑応答

Q. いくつか挙げた議題の中でなぜ保健委員会と生徒会費について取り上げたのかの理由、また、他に挙げた議題は何があったのか。

A. 保健委員会に関しては、前から男女の枠をなくしてもいいのではないかという意見があったため、今回の活動が行われた。生徒会費に関しては、執行残額が出ていたこともあり、その残額を生徒たちの他の活動に還元できると考えたため、取り上げた。

男女の縛りをなくすという視点から学級委員も縛りをなくそうという議題が中央委員会で挙げた。しかし、男女それぞれのリーダーがいた方がいいという意見が多かったため、中央委員会では改正はしなかった。生徒会の規約の改正になるため、校則とは混合しないように生徒に声かけをした。

協議の柱及び協議概要

中学校【自分ごととして集団活動に参加するための工夫】

- ・ 集団全員が参加することの難しさを感じている。
→時間をかけて少しずつ話し合いに参加する人数を増やしていく。
- ・ 話し合い活動で参加していない生徒が数人いる。
→人数を少人数（最大でも4人）にし、グループを作り、一人一つ意見を伝える時間を設ける。
また、話し合いの仕方を先生が見本を見せる。
- ・ 自分の意見が定まらなかったり、多数派に流れたりしてしまう生徒が多い。
→行事の班決めの際は自分ごとになる生徒が多いため、生徒自身の生活に直結するような議題になるといい。
- ・ 全員が自分ごととして議題に向き合えるように、班ごとにプレゼンをして発表し合う。
プレゼン準備をする過程から関わることで、他の班の意見に興味・関心が出てくるとともに、他者の意見を取り入れることができる。

小学校・中学校共通【小学校と中学校の特別活動をつなぐためには】

- (1) 小学校→自分たちのことを自分ごとと捉え、自分で決めることを目標としている。
小学校低学年は、発信する人や前に出る人が固定されていくため、全員を育てていきたい。
多くの児童に、多くの経験をさせ、得意なものを見つけていく。
高学年になると、数人がリーダーの経験を積んでいく。
中学校→数人のリーダーに任せず、フォロワーを見つけていき、良いフォロワーを育成していく。
次第に良いフォロワーをリーダーへと育てていく。また、多くの人にリーダーを経験させることでそれぞれの気持ちを汲み取ることができて、協力し合える良い集団になっていく。
- (2) 〈小学校〉
 - ・ 話し合い活動を充実させる。
→対先生ではなく、対子どもでの話し合いの機会を増やす。〈中学校〉
 - ・ 意見を表現させる力を身に付ける。
 - ・ 様々な角度から物事を見る力を身に付ける。
 - ・ 話のキャッチボールを自分たちでする。
教師からある程度の枠を与えることで、生徒たちは自分ごととして考え、話し合い活動が活発になっていく。
- (3) 中学校が小学校でやってほしいこと
話し合い活動の意欲が低い生徒が多いので、話し合い活動を増やしてほしい。
話し合いの進め方、意見の伝え方などを教えてあげる。先生の働きかけが必要。

まとめ概要

生徒総会を通して、多くの生徒が「自分の意見をもつことの大切さ」や「多数決など民主的な意思決定の在り方」に関心をもったことが大きな成果として挙げられた。実際に寄せられた感想には、自分の考えを伝えることの難しさや、他者の意見を尊重することの重要性について言及する声が多く見られ、生徒たちが生徒総会を通じて主体的な学びを得たことがうかがえた。

また、普段の学校生活ではあまり意識することのない「学校全体の課題」や「生徒会の役割」に目を向けた生徒もあり、学校運営への関心が広がったことも一定の成果である。

一方で、議題に関する興味・関心が薄い生徒も一定数見られ、全ての生徒が生徒総会の目的や意義を十分に理解・実感したわけではない点は課題として残る。

今後は、より多くの生徒が主体的に関われる仕組みづくりが求められると考える。